

◆実践問題4◆

ある聖、船に乗りて近江の湖を過ぎけるほどに、

網船に大きな鯉をとりて持て行きけるが、いま

だ生きてふためきけるをあはれみて、着たりける

小袖を脱ぎて、買ひ取りて放ちけり。いみじき功

徳つくりつと思ふほどに、その夜の夢に、白狩衣

着たる翁ひとり、われを尋ねて来たり。いみじう

恨みたる気色なるを、あやしくて問ひければ、「わ

れは、昼、網にひかれて命終はらんとしつる鯉な

り。聖の御しわざの口惜しく侍れば、その事申さ

むとてなり」と言ふ。聖言ふやう、「この事こそ心

得ね。よろこびこそ言はるべきに、あまつさへ、恨

みらるらむ、いとあたらぬ事なり」と言ふ。翁言は

- 1回目
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目

く、「しか侍り。されど、われ、鱗の身をうけて、

得脱の期を知らず。この湖の底にて、多くの年を

積み。しかるを、たまたま賀茂の供祭になりて、

それを縁として苦患をまぬかれなんとつかまつり

つるを、さかしき事をし給ひて、また畜生の業を

延べ給へるなり」と言ふとなむ、見たりける。